

兵庫県におけるパン用小麦の施肥法について

兵庫県の産地品種銘柄となっている「ミナミノカオリ[®]」は、温暖地域のパン用として有望な品種であるが、グルテン強度を高め、パン適性を向上させるためには13%以上の子実タンパク質含量が必要である。このタンパク質含量を確保するための施肥法について検討した結果、実肥（出穂10日後頃）として窒素成分で6 kg/10a施用することで、13%以上の子実タンパク質含量が確保できることが明らかになった。

内 容

パン用小麦の有望品種「ミナミノカオリ」について、子実中タンパク質含量がパン用小麦に必要な13%以上となる施肥法を、センター内において2009年、2010年播種^はの2カ年で検討した。播種は11月上旬に行い、施肥法は、10a当たり窒素成分で、基肥は6kg、追肥（2月上旬）2kg、穂肥（3月上旬）3kgとした。処理区は、実肥無施用区、3kg施用区、6kg施用区の3段階とし、出穂約10日後に硫安で施用した。

「ミナミノカオリ」は、実肥量増加によって子実タンパク質含量が向上し、2カ年平均では無施用区では9.9%であったが、3kg施用区では12.3%、6kg施用区では13.7%となった（図1）。また、同じく実肥量の増加により千粒重も36.8g、38.4g、39.5gと大きくなり、それに伴い、収量も6kg施用区では無施用区と比較して約1割向上した（図2）。

以上のことから、「ミナミノカオリ」では、パン適性を高めるための子実タンパク質含量13%以上を確保するためには、窒素成分で出穂後10日目の実肥量を6 kg/10aとすることが適切であった。

今後の方針

「ミナミノカオリ」については、中播地域を中心に2012年産で65ha作付けされており、製パン適性の向上が大きな課題となっている。穂発芽しやすいため品質低下がみられる年もあるが、確実に作付けが拡大しており、栽培マニュアルを作成するため、施肥法を含めてさらに検討する。

松本 純一（原種農場、前農産園芸部）
（問い合わせ先 電話：0790 - 66 - 2449）

ミナミノカオリ：九州沖縄農研センターが育成。高タンパク質の特性を発揮させるには、実肥が必要。成熟期はシロガネコムギ並み、穂発芽しやすいので、適期収穫が重要。

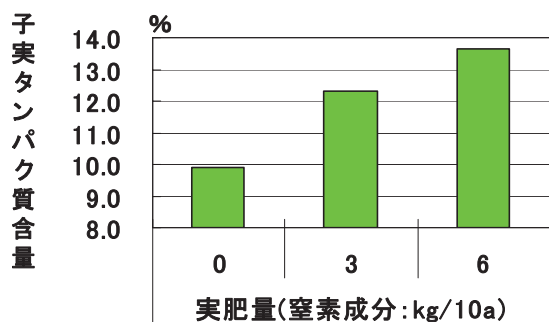


図1 実肥量と子実タンパク質含量の関係

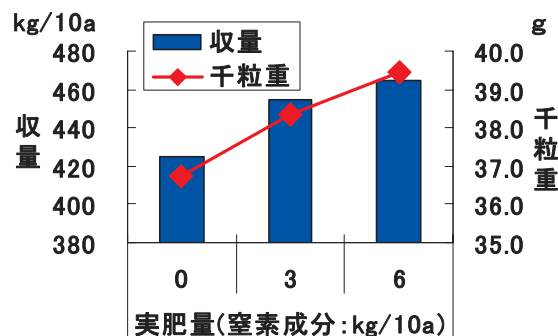


図2 実肥量と収量、千粒重の関係